

第1709回 2020年11月26日(木) 《週報》

秦野名水ロータリークラブ
秦野商工会議所 12:30

1. 点 鐘 2. 合 唱 「それでこそロータリー」、四つのテスト 3. お客様の紹介

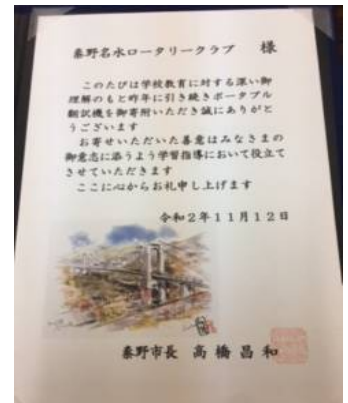
- ・財団資金推進委員会委員長 ^{タゴ} 田後 ^{リュウジ} 隆二様 (相模原中 RC)
- ・補助金配分・VTT 委員会委員長 ^{ナカムラ} 中村 ^{マサヒデ} 眞英様 (伊勢原平成 RC)
- ・補助金配分・VTT 委員会 ^{シバタ} 柴田 ^{ナオアキ} 直明様 (小田原北 RC)

4. 会長の時間

- 今日はロータリー財団の卓話があります。お三方がお越しになっており十分な時間を取りたいと思いますので、いつものような話しは割愛させていただきます。
- 先日我がクラブからポータブル翻訳機を市の方へ寄付しましたので、その令状が届いております。
- 諸星道治さんにベネファクターの表彰が届いております。



“おめでとうございます”



5. 幹事報告

【ガバナー事務所より】

- ①米山学友同窓会 開催のお知らせ

【受付文書】

- ①国際ソロプチミスト秦野会報 (回覧)
- ②みのりの家ニュース (回覧)
- ③ロータリーの友事務所事業報告 (回覧)

【例会変更】

【本日の配布物】

- ・第1709回例会次第
- ・第1707回例会週報
- ・第5回理事会議事録
- ・ロータリーの友 12月号

6. 記念日

- ・会社創業記念日 諸星道治さん (12/1)
- ・入会記念日
- ・御結婚記念日 [欠席分] 淵脇さん (11/23)
- ・御誕生記念日 (会 員)
(配偶者) 大屋トキ江さん (11/28)



7. スマイル報告

- 財団資金推進委員会委員長(相模原中 RC) 田後隆二様「財団月間の卓話に伺いました。どうぞよろしくお願い致します。」
- 補助金配分・VTT 委員会委員長(伊勢原平成 RC) 中村眞英様「秦野名水ロータリーの皆様こんにちは。本日はロータリー財団の卓話に呼んで頂きありがとうございます。宜しくお願い致します。」
- 補助金配分・VTT 委員会(小田原北 RC) 柴田直明様「本日はよろしくお願い致します。」
- 神崎達朗さん「本日は先程ご紹介しましたロータリー財団委員会のお三方の卓話です。よく聞いてよく理解して下さい。」
- 大屋富茂さん「今月はロータリー財団月間です。地区より田後様を始め三名の委員の方に訪問頂きました。卓話よろしくお願い申し上げます。
家内の誕生祝いありがとうございます。」
- 鈴木和夫さん「地区財団資金推進委員長田後隆二様、補助金配分 VTT 委員長中村眞英様、同委員柴田直明様、本日はよろしくお願い致します。」
- 古谷スミ子さん「財団資金推進委員長田後様、中村様、柴田様、遠方よりわざわざ有難うございます。勉強させて頂きます。」
- 山谷洋子さん「財団資金推進委員会の皆様ようこそおいで下さいました。本日はどうぞ宜しくお願い致します。」
- 桐山晃忠さん「日常に感謝、日々好日を望みます。」
- 北村まり子さん「スマイルします。」
- 原郁夫さん「地区財団委員会の皆様、本日はよろしくお願い致します。」
- 原恵美子さん「3 日前に右目の白内障の手術を受けました。これで両目が終わりほっとしました。両親の頃は入院していましたが今はわずか 15 分程です。医学の発達は素晴らしいと思います。完全なるコロナウィルスのワクチン誕生が待ち遠しいです。」
- 東島礼美さん「紅葉があと少し楽しめそうです。」
- 淵脇美代子さん「11 月はロータリー財団月間、田後隆二様(相模原中 RC)、中村眞英様(伊勢原平成 RC)、柴田直明様(小田原北 RC)、お越し下さいます。ありがとうございます。卓話どうぞよろしくお願い致します。
結婚祝いありがとうございます。51 年になります。」
- 諸星道治さん「創業記念ありがとうございます。
財団資金推進委員長田後隆二様、補助金配分 VTT 委員長中村眞英様、柴田直明様、本日は宜しくお願い致します。」
- 諸星利男さん「スマイルします。」
- 酒井健一さん「中村さんしばらくです。お元気そうで…」

合計 53,000 円

8. 出席報告

○会員数 16 名、○出席義務 16 名、○出席数 14 名、出席率 87.5%

9. 地区委員会報告⇒ 特になし

10. 委員会及びその他の報告

<神崎会長より>

- 今年度の IM はオンライン方式で行われるということになります。そこでパネラーを各クラブより選出するわけですが、我がクラブからは「原郁夫さん」を推薦致しました。原郁夫さんをご紹介します。
- この度、今年度の IM のパネラーを指名されました。
先日伊勢原において打ち合わせ会議がありまして、報告のあったことをお伝え致します。
- 日時は 1 月 23 日(土)、点鐘は 14 時となります。従来は昼食をとっての開催でしたが、今回は IM として昼食は



出さないで各クラブで決めて頂くことになります。

- 会場は、秦野と伊勢原の2会場となります。但し、その中で秦野3クラブ、伊勢原3クラブそれぞれが部屋を別々に行われることになります。
 - テーマは、①オンライン例会について 支持するか不支持かパネラー他会場の皆さんからもご意見を伺いたいとの事。また関係問題として地区のどの委員会やいろいろな会議がペーパーレスになってきているのでこのペーパーレスについても討議頂きたいとの事。②SDG'sについて⇒難しい話しになると思います、③コロナ禍における奉仕事業について⇒現金の寄付・物品の寄付等だけで済ませてよいのか、というような問題を討議して頂くということです。
- また詳細は追ってご報告させていただきます。

11. 卓話 ロータリー財団について 田後隆二様

- ご紹介：ロータリー財団委員会 淵脇委員長
地区財団資金推進委員長田後隆二様、補助金配分
VTT 委員長中村眞英様、同委員柴田直明様、本日は
どうぞよろしくお願い致します。



- 司会：補助金配分 VTT
委員長中村眞英様

財団月間ということでいろいろなクラブを回っております。今日は資料のハンドブックを用意して頂いたので、このハンドブックを使い田後委員長から説明して頂きます。その後柴田委員から説明し



て頂き、最後に田後委員長の説明で終了したいと思います。

- 皆さんこんにちは！私は地区財団資金推進委員長を務めます田後隆二と申します。相模原からやって参りましたので結構大変でした。
- さて、秦野名水 RC の皆様には毎年毎年多額のご寄付を頂き誠にありがとうございます。お陰様で様々な奉仕活動、あるいは奨学生を輩出することができて誠に有難く思っております。



そういう中で特にお願いすることは無いと思いますが、今月は財団月間ということで皆さんに財団についてもう一回おさらいをして頂く月でありますので、僭越ながらも私の方から少しお話しをさせて頂きたいと思います。

- お手元のハンドブックは50 頁程ありますが、一生懸命作成しましたので是非皆さん参考にして頂ければ良いと思います。今日は掻い摘んでごくごく一部しかお話しはできませんが、地区独自のハンドブックであり地区財団の情報が詰まっております。

初版は最後に書いてあるように2019 年4 月でまだ作成したばかりです。これから少し直していかなければならない箇所もあるかもしれませんが、皆さんのご参考になるだろうと思います。これを作ろうということでお話しを頂いたのが、地区財団委員長のバスター田中賢三様であり号令一下で行い結構大変でしたので、是非皆さんにはご活用頂きたいと思います。

- 因みに、今もロータリー財団委員長と言いましたが私も委員長、ここにおられる中村さんも委員長ということで、委員長は何人いるのだとお思いかと思いますが、ハンドブック3 頁をご覧くださいと分かり易いと思います。地区には四つの小委員会があり、ハンドブック3 頁の“2”を見て頂くと①補助金配分・VTT 委員会、②平和フェロー・奨学金委員会、③補助金管理委員会、④資金推進委員会となります。これは地区によっても異なりますし、2780 地区においても毎年組織構成が変わっているのでこれが普遍的なものではないのですが、さらにそれを束ねる“中委員会 補助金委員会”があつてさらにその上に“大委員会 地区ロータ

リー財団委員会”があり全部で6つということになります。

- この委員会それぞれがきちんと活動させて頂くに当たっては、皆様にご寄付をお願いするということです。勿論ご寄付は自発的に行っていただくもので、強制されるべきものではないことが大前提ですが…、地区目標はハンドブック 4 頁に記載のとおり、

年次基金寄付 200 ドル以上/1 名

ポリオプラス寄付 40 ドル以上/1 名

恒久基金寄付 1,000 ドル以上/1 クラブ

を掲げております。例年通りですが、今年度もご協力をお願いいたします。

年次基金寄付や恒久基金寄付がどういうものかという事に関してはハンドブック 5 頁に記載してありますのでご覧願います。

- 次に、シェアシステムについてお話しします。ハンドブック 6 頁をご覧ください。6 頁は、シェアシステムを理解しやすくした架空の金額です。実際の地区財団活動資金の収支はハンドブック 28 頁に記載があります。この6 頁で出てくる専門用語はハンドブック 7 頁に表として書かれておりますのでご参照願います。

そこで活動資金、補助金の種類と決定機関の名称を整理すると、

TRF : The Rotary Foundation (ロータリー財団)

DDF : District Designated Fund (地区財団活動資金)

WF : World Fund (国際財団活動資金)

DG : District Grants (地区補助金)

GG : Global Grants (グローバル補助金)

以上ですがこの中で我々が一番扱う守備範囲が“DDF：地区財団活動資金”となります。この DDF の 50% が DG (地区補助金) となります。DG の内訳は①クラブ奉仕プロジェクト、②地区奨学金(1 名)、③管理運営費等になります。①については後程柴田委員から説明、②奨学生に対する奨学金になると我々は米山奨学生がまず浮かびます。何故かという日本に来る奨学生だからです。よって具体的にあの人と分かります。逆に財団の奨学生は出て行く、奨学金を渡して海外で勉強されているので馴染みが薄いかもしれませんが、帰ってきてから財団学友として私たちの活動を支援して頂いています。

GG：グローバル補助金は地区の判断で使えますが、一応縛りがあって“6つの重点分野”について使って下さいという事です。よってクラブで行う奉仕プロジェクトも“6つの重点分野”に入ってくるわけです。それでは“6つの重点分野”とは何か、①平和と紛争予防/紛争解決、②疾病予防と治療、③水と衛生、④基本的教育と識字率の向上、⑤母子と健康、⑥経済と地域社会の発展、となります。次年度からこれが“7つの重点分野”になり、“環境の保全”が加わります。

この分野についての奉仕活動や奨学生に奨学金を払うにしても、奨学生はこの“6つの重点分野”を海外で勉強してきますというのに限って支出できるのが GG となります。

- 奨学生の話として具体的な話として、10 月 31 日に次年度海外で勉強する奨学生の選考会(地区独自)を行いました。5 名の応募がありました。この 5 名というのは少なく、ただこのコロナ禍でなかなか海外で留学して勉強する機会が得られない、そもそも渡航することが出来ないとの理由になります。だから優秀な方ばかりでした。どのような選考会を行うのかというと、これから勉強しに行こうとするとところが英語圏であれば英語で論文を書いてもらう。勉強する先がドイツ語圏となるとドイツ語で書いてもらうという様に、採点する側も大変ではないかと思われそうですが、大学の先生に依頼して行い、面接も現地の言葉で行います。これら全てをクリアした方が合格となります。今回は GG の補助金の奨学生は 5 名のうち 3 名が海外に旅立たれます。1 名は DG の奨学生となります。DG は“6つの重点分野”に縛られませんので、音楽で勉強したいとか建築を勉強したいとかの人たちにも奨学金を支給することができます。これが GG と DG の違うところです。

- 平和センター・平和フェローについては、ハンドブック 21-24 ページをご覧ください。全世界で7か所、アメリカでは2か所あり、我が国では、国際基督教大学（ICU）に平和センターが設置され、毎年約10名の平和フェローが大学院博士前期課程に所属し、平和と紛争解決を中心とする国際問題研究に従事しています。後はポリオプラスなどに使用されています。
- 話は元に戻し、寄付はしたのが何に使われているかが疑問になりますがこれは3年後にクラブの奉仕活動に戻ってくるという事になります。
皆さん、2017年に国連事務次長に就任された、中満 泉（なかみつ いずみ）さんは、当地区厚木 RC の推薦を受け、1987-88 年度財団奨学生として留学し、世界に羽ばたかれた方です。世界で活躍する優秀な人材を一人でも多く輩出するためにも、皆様のご寄付をお願いいたします。
- ここから補助金配分・VTT 委員会柴田直明様が変わります。



- 皆様こんにちは！小田原北 RC の柴田でございます。
私は一昨年は補助金配分委員会にいましたが、昨年は青少年の交換留学生のカウンセラーを担当していました。ここで再び戻ってきたわけですが、一番この委員会に関係した部分です。3年前に計画して、2年前に当クラブが地区補助金をシェアシステムでいけば DG 中の“クラブ奉仕プロジェクト”の部分になりますが、この奉仕プロジェクトをどうしても行いたいということでスマイル BOX のお金が奉仕に使われる部分ではないかと思いました。
- 当クラブではインターアクトクラブが松田町の立花学園にありまして、単純にインターアクトクラブの人を福島で震災を受けたところを見たことが無いという生徒さんを是非先生もそういうところを生徒さんに見せたいというお話があったので、単純な動機から地区補助金を頂いてプロジェクトを作れば、生徒さんにも負担を掛けずにできるなぁと青写真を描きました。
- 我々補助金配分・VTT 委員会、VTT は後程説明しますが、この配分という部分は正に地区補助金を配分する配分委員会ということで、グローバル補助金というのは扱う金額も300万円以上のプロジェクトということで、しかも海外の RC と一緒にやらなければなりません。実際秦野中 RC さんはフィリピンで活動をされましたが、そういう国際的プロジェクトの窓口として私たちはお話しを伺いいろいろお手伝いはしますが、決定機関はあくまでも日本のロータリー財団という事になります。
- この DG (地区補助金) のクラブ奉仕プロジェクト、先程の田後委員長が言われたようにこのシェアシステムによってどれだけの年次寄付が集まったかによってもこのクラブ奉仕プロジェクトに使われる金額も非常に変わってきます。よって計画年度の2年前にどれだけあったのかということが重要になります。
- 1件当たりのプロジェクトへの補助金「一般応募」は、奉仕プロジェクト費用の80%かつ50万円を上限に配分します。但し、50万円を超え100万円未満の地区補助金申請「特別応募」は、地区へ個別にご相談下さい。これに関しましても内容によって実際に我々地区補助金に対し選考会を実施しています。こちらの方で何割出るかという部分になりますが、当然素晴らしい内容の事業に関しましては希望通りの金額が補助金として下りる形となります。
私たちは補助金セミナーを実施して、年2回補助金説明会を実施しています。この補助金説明会に出席して頂いて補助金を申請して頂く形となっていますが、説明会の後に相談会を設けていますので是非とも寄って頂きたいと思います。
補助金配分・VTT 委員会では如何に皆さんに希望通りの金額をお渡しできるかというお手伝いをする委員会という事になります。
実は私が先程の立花学園の話しを当時の配分委員会に相談に伺ったところ、イン

ターアクトクラブ対象では補助金になりませんと言われ、内容もロータリアンの飲食代も入っていると指摘されました。こういういろいろな制約があるわけですから、まず最初にどういうことをやりたいのか決めて頂き、是非説明会の後の相談会に来て頂ければ、我々補助金配分・VTT 委員会の方で全力で希望通りの金額が出るような形で応援したいと思います。

特に名水 RC さんは寄付の金額も目標も達成されている部分では補助金を頂く資格は他クラブよりは充分あると思いますので是非皆さんで様々な案を出して頂いて奉仕事業に取り組んで頂きたいと思っております。

○VTT ですが、グローバル補助金の一つになります。

この職業研修チームというのは、実際に横須賀 RC さんが VTT を行いました。これに関しましては日本の医者が海外に行き、現地の医者を指導しに行ったことが VTT という事になるわけです。

所謂決定機関は日本ロータリー財団という事になりますが地区の窓口は我々補助金配分・VTT 委員会になりますので気楽にご相談願います。本日はありがとうございました。

○再度、田後委員長より、



ハンドブックが渡っているので、皆さんざっと読んで頂けたらと思います。

ハンドブック 8 頁 9 頁は先程お話しした“地区補助金”“グローバル補助金”についての住みわけが事細かに書かれています。

それからハンドブック 11 頁からは、寄付分類について細かく書かれています。その中で、ポリオプラスとありますが、プラスとは百日咳やはしか、

ジフテリア、破傷風、結核の 5 つがプラスということです。皆さんご存じかと思いますが、ビルゲイツがポリオ撲滅にあと少しなんだと言っていたが、ビルゲイツがどのくらいの寄付をしていたかというところ、ハンドブック 30 頁の財務のところでは全体の支出の約半分がポリオプラスに使われています。ロータリー財団の倍額をビルゲイツメリンダ財団が加担して支出してくれてるので、実際のロータリー財団の負担はこの数字の 1/3 になります。それだけポリオプラスに多く使われているという事になります。

因みにあと少しと言いましたが、アフリカでは 3 年前に撲滅しました。残りはパキスタンとアフガニスタンですが、紛争があるのでなかなか踏み込んで撲滅ができない現状です。

○ポリオプラスの次に多く使われているのはグローバル補助金です。勿論地区の判断でグローバルの奉仕活動を行うということです。世界的にはこの表のように使われていることをご理解頂ければと思います。

○久保田ガバナーからは、年次基金寄付の地区総額 50 万ドル以上、ゼロクラブゼロ、ゼロ会員ゼロという目標を掲げられています。

ゼロクラブゼロという目標は、おかげさまで毎年達成してきておりますが、地区総額 50 万ドル以上という数字は、会員総数を 2,500 名として（実際には約 2,300 名）、全員が 200 ドル以上で達成できる計算になります。ゼロ会員ゼロ達成についても目標は高いですが、ご協力よろしく願いいたします。



*長時間に亘りありがとうございました。